科目ナンバリング	U-LAS01 10009 LJ38				
授業科目名<英訳>	西洋史II Western History II			担当者所属職名・氏名	文学研究科　教授　　佐藤　公美
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	歴史・文明(基礎)	使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	火5/水5	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

本講義は、中世ヨーロッパ都市史を特に社会とコミュニティに焦点を当てて論じる。

中世ヨーロッパの都市社会は、多様な地域的コミュニティ（ローカル・コミュニティ）の一つであり、限定された時間と空間を共有する人々の共在がコミュニティ形成維持の重要な要因である。しかし差異化された複雑な住民構成を持ち、相対的に大きな移動性をもつ人々を受入れ、また送り出し、文化的にも経済的にも変動の大きな、動きのある世界でもある。そんな中世都市は、変化に応え、変化を生み出す政治と文化の実験場の感さえ呈する。そこで築かれた歴史的経験に、わたしたちの社会性と共同性の基盤にある価値観や感情は根差している。

また、中世ヨーロッパの都市は長い間歴史学や社会学における近代化論（近代文明がいかに形成されたかをめぐる議論）の要石でもあった。そのため中世都市像が、わたしたちの歴史観や世界観に与えている影響は意外なほど大きい。

講義ではヨーロッパ中世都市論の学説を紹介し、西洋中世史学の入門的知識を習得してもらうとともに、受講生が多様な時代と地域、そして現代の都市とコミュニティについて考える自らの視覚を養う場としてもらいたい。

[到達目標]

（1）中世ヨーロッパの地域的共同体の基本的特徴を理解する。
（2）中世ヨーロッパの地域的共同体に関わる西洋中世史の基本的事項を理解する。
（3）中世ヨーロッパの地域的共同体に関する研究上の論点を理解する。
（4）中世ヨーロッパの地域的共同体に関する参考文献を適切に活用することができる。
（5）（1）～（4）に基づく自らの考察を自らの言葉で適切に表現することができる。

[授業計画と内容]

以下のテーマについてそれぞれ１～４回前後の授業を行う。授業回数はフィードバックを含めて15回とする。

1. イントロダクション
2. 中世都市共同体論の前提と都市社会学
3. 西洋中世都市をめぐる古典学説：ピレンヌ・プラーニッツテーゼ
4. 都市コミューンを解釈する
5. 古代から中世へ：連続説と断絶説
6. 一つではない中世ヨーロッパ（1）：南欧都市
7. 一つではない中世ヨーロッパ（2）：欧州各地の都市
8. 中世都市の自由と不自由：ミニステリアーレス論
9. 中心地論の影響：法共同体論から地理学的関係論へ
10. 都市＝農村関係、市場、交易
11. 都市をつくる様々なコミュニティ
12. 中世都市のアイデンティティ
13. 中世都市の政治文化
14. 移動、定住、市民権

西洋史II(2)へ続く↓↓↓

西洋史II(2)

15.フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（毎回の授業時の小課題70%）と期末試験（30%）により、到達目標の達成度に基づき評価する。

[教科書]

使用しない
授業中に参考資料やレジュメを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介する参考文献や史資料を適宜あわせて読むこと。

[その他（オフィスアワー等）]

メールアドレスは以下です。
sato.hitomi.5k@kyoto-u.ac.jp

[主要授業科目（学部・学科名）]